



関根氏(左)、山浦氏(右)からお話を伺いました

言葉の大切さを教えるなかで、団体受検したのが日本語検定です。ほぼ全員の生徒が合格したことは、生徒の大きな自信に繋がります。

「ひとりだち」に欠かせない コミュニケーション能力を —埼玉県川越市立特別支援学校—

「特別支援学校で日本語検定」

埼玉県川越市立特別支援学校では、コミュニケーション能力に欠かせない言葉の大切さを教えるなかで、日本語検定を団体受検しています。ほぼ全員が合格し、生徒たちの自信につながるのと同時に、企業からも高い評価を受けています。元校長の山浦秀男先生、現校長の関根康弘先生にお話を伺いました。(聞き手:上村雅代<ライター>)



にほごん

川越市立特別支援学校とは

川越市立特別支援学校は軽度知的障害のある生徒が通う学校として、埼玉県で最も歴史のある高等部の単独設置校です。「ひとりだちする生徒」を学校教育目標に掲げ、卒業後に自立して働き、暮らせるように教育活動を行っています。

生徒は国語・数学・体育・音楽・美術・総合的な学習の時間の教科学習のほか、週に8時間「職業(作業)」の学習をしています。印刷、セメント、木工、紙工芸、手工芸の五つの作業班に分かれ、1年に一つの作業を継続して学ぶことで、働く力を身につけます。

また年に3回、各1週間の校内実習があり、この期間は学校が工場さながらになります。ボールペンの組み立てなどの業務を民間から請負い、生徒も先生もユニフォームを着て組立・検品・納品をします。

さらに年に3回の校外実習があり、生徒はそれぞれの作業現場に向いて実習を行います。

コミュニケーション能力の育成に欠かせない日本語力

作業能力とともに「ひとりだち」に欠かせないのが、作業現場でのコミュニケーション能力です。教科学習の「国語」で挨拶や電話応対、敬語の使い方などの生活に直結する能力を重点的に学び、実習では挨拶や報告・連絡・相談をきっちり行うことを大切にしています。

した。このことは本人はもちろん、親御さんをはじめ、おじいちゃんおばあちゃんや、障害のある子の保護者団体の方々にも大変喜ばれ、御礼を述べに来校されたり、お電話やお手紙を多数頂戴したりしたそうです。

企業からも高い評価

また資格の取得は、就職内定にも役立っています。それまでは履歴書に書ける資格を持たない生徒が多かったそうですが、検定に合格する能力があると企業側に伝えたことで努力が買われ、人員削減で枠のない中、大手運送会社に採用された生徒もいます。

この運送会社では各都道府県と各事業所にそれぞれ番号が振られ、4桁の数字で表記しているのですが、生徒はその番号を徹底的に丸暗記したといいます。

「我々(企業)はその資格を取るために努力をしたという『努力の姿』を求めている。(生徒の)この姿を他にも広めたい」

これは運送会社の社長さんがおっしゃった言葉ですが、このように企業は生徒の挑戦や努力のプロセスを求めているといえます。

日本語検定では、全国にある特別支援学校や小学校・中学校の特別支援学級などに通う児童・生徒を含め、受検を希望するすべての人に機会が得られるようにという配慮のもと、特別支援学校・特別支援学級の会場では、1名から受検が可能になっています。検定がこれからも努力する人のための希望の芽になることを願っています。

日本語検定 実施予定

平成25年度第2回 (通算第14回)

【一般会場】11月9日(土)

【準会場】11月8日(金)・9日(土)

【申込期間】8月19日(月)～10月11日(金)

●平成26年度第1回 (通算第15回)
平成26年6月実施予定

●平成26年度第2回 (通算第16回)
平成26年11月実施予定

詳しくは日本語検定のホームページをご覧ください。
<http://www.nihongokentei.jp/>

後援

文部科学省／日本商工会議所／全国連合小学校長会／全日本中学校長会／
全国高等学校長協会／経団連事業サービス／全国高等学校国語教育研究連合会／
日本PTA全国協議会／全国高等学校PTA連合会／日本青少年育成協会

<問い合わせ先>

日本語が大好きだから
語検 日本語検定委員会事務局
フリーダイヤル 0120-55-2858



(日本語検定委員会主任研究員、元川越市立特別支援学校校長 山浦 秀男氏
埼玉県川越市立特別支援学校校長 関根 康弘氏)



ランチョンマットを制作する生徒